

世の中、本当は逆②！？ (教育コラム)

世の中、本当は逆？①の続編として残りの4つを紹介していきたいと思います。①でもお伝えしたように、私の私見ですので、それ実は私も思ってたあ〜と納得していただくか、それって単なるサンプル数1のあなたの感想ですよ？とひろゆき的に思われるかは自由ですので、ご了承ください。一応、教育コラムとして書いていますので、子どもの教育や大人になってからの学びとしてお役に立てるような内容にしていければと思います。

では、早速

3つ目は物は高い方から低い方へ流れる。これは自然現象で、水や風や温度もそうですし、重力のある地球では皆さんも物を落としたり、高い所から落ちてケガをしてしまったりと、既に経験していることだと思います。しかし、**人工的なモノについてはこの逆になります**。お金は金利の高い方高い方へと移っていきますし、人の集団も人口密度の高い方へと移っていき、首都圏一極集中のようなことは避けて通ることは出来ません。行列が行列を呼び人がどんどん密度の高い方へと移動して行く様子も想像

し易いと思います。部屋が散らかるといふ現象も実は同じようなことが言えて、人工的に人が手を加える状態、つまり一般的に分かりやすく普段使う言葉で表現すると『片付け』をする行為というのは、所謂自然に近い状態で放っておくと散らかってしまう物を密度の高い状態へと人工的に移動させる行為になります。物1つ1つの視点で見ると密度を均等にしている状態、物が一塊にまとまっている状態ではなく密度は低く散漫な状態（これが自然）から、片付けという人工的な行為により密度を高くしていく、言い訳にしか聞こえませんが実は不自然な状態のことを『片付け』と呼んでいるのです。私を含めた、片付けが苦手な人の心の拠り所になれば幸いです。

そして

4 つ目は個性を認める、大切にするとする理想。どの親もどの先生もどの学校もどの企業も、恐らく個性を活かした・・・個性を大切に・・・などの理想をステレオタイプのように口にしたいと思います。間違っても、うちの教育方針は没個性です。とか、金太郎あめを育てる教育をしていますと言った学校も企業も聞いたことはありません。**しかし、やっていることは案外逆をやっているように私は感じます。**「〇〇くんの家も誕生日に

新しいテレビゲームのソフト買ってもらったみたいだから、僕も欲しい〜」

と幼き山田少年は母に言いました。その時の母の返しは今でも覚えています。「よそはよそ、うちのうち」、要するにうちは買いません。と言われたのです。最近ではあまり聞かなくなったフレーズですし、これほどハッキリとキッパリと子どもからの要望を断ることを今の私は出来ていないと思います。ついつい、周りに同調してしまっていることは案外多いと実感しています。学校の制服や会社でのユニフォーム、ユニフォームとまではいかなくても同じようなスーツ姿。どれも没個性に繋がる慣習だと少し引いた視点で見ると改めて感じます。個性を無くさない、無くさせないという事は、よっぽど意識していないと実は難しく、没個性がいかに思考停止の始まりで、個性を大切にするとという言葉がそのまま行為に繋がっていない現状は、やっぱり世の中逆だよなあ〜と自省も込めて思ってしまう。

そして

5 つ目は日本の一般的な働き方について、多くの子どもを育てる家庭では夫婦・家族での子育てと仕事の両立はとても難しい課題の1つだと思っています。最近では女性だけでなく男性も育児休暇を取れるように少しずつ環境は整ってきているように感じます。しかし、子育てにおいて夫婦の協

力が必要な時期は出産直後だけではないと私は実感しています。一般的に30代~40代は働き盛りで会社内では経営側の考えの元、様々な経験をさせたいので部署が変わったり、転勤があったり、優秀な社員であればあるほど、仕事に打ち込む時間は長くなってきます。家族の視点からすると、私はこれを反対だと思っています。30代~40代の子育て中の働き方は家族中心でほどほどにして、転勤や海外赴任は本人や家族が納得していれば、とても良い経験になるので問題ないが、単身赴任は無い方が良いと思っています。都市伝説かたまたまなのかは分からないけど、長子が小学校に進学前に定住先を決めるため多くの家庭では住宅を購入するタイミングになり、購入した矢先に転勤が決まり、父親だけ単身赴任が始まる。ワンオペでの子育てはとても大変なことは言うまでもありません。その時期は先程も言ったように敢えて繰り返しますが、仕事はまじめに真剣にやりますが、ほどほどにして帰宅時間も早めに帰り、家族と一緒に夕食を食べ、次の日の朝も夫婦で協力して子どもたちを学校へ送り出し、自分たちも会社へと向かう。子ども中心の生活では学校行事、学期ごとの参観日や年に1度の運動会や文化祭にも参加し、塾に通い出し必要であれば送迎をしたり、クラブ活動をしていけば送迎や応援をしたり、もちろん日々の学校での出来事について聞いたり宿題を見てあげたりと、この時期にしか経験出来ない

子育ての醍醐味を奪うような、一昔前の日本の働き方は私は間違っているとずっと感じています。そういう意味での反対であり、本来は子どもたちが思春期になり親とあまり直接的には関わらなくなっていくような時期、多くの家庭では親が50代前後の時期になるのかなあ～と思いますが、仕事に集中する方が正しいと勝手に思っています。その年になれば、朝早くから夜遅くまで働き、単身赴任も思春期のややこしい子どもと距離をおけて、お互いにとって良い機会になると思います。しかし、実際はこれもまた反対で、それぐらいの年になると、所謂管理職になりマネジメントが主な仕事になり、責任は大きくはなるけれども働く時間はそれほど長くなる、と言うか自分自身でコントロール出来る立場になっているので、仕事にかかる時間はほどほどになっていき、自宅にいる時間は長くなる。その結果、それまであまりコミュニケーションを取ってこなかった家族とは何とも言えない距離があり、少々孤独感を感じてしまう。やっぱり世の中反対だよなあ～と勝手に思ってしまいます。

少し悲しくなってしまったところで、

最後に、『人は見た目が9割』『人は話し方が9割』このような本が書店に平積みされてベストセラーになっていました。皆さんも読まれました

か？面白かったですか～？そして、納得されましたか？？？

これも逆だと思っています。**見た目や話し方で殆どの人が他人を判断してしまうから、詐欺に騙されてしまうと私は思っています。**見た目より中身、いわゆる本性。話し方より話の内容の方がよっぽど大切だと思います。オレオレ詐欺はまさに電話口での話し方にまず騙され、登場した人物の恰好・身なりを見て更に信じてしまい、話の内容は通常では不可思議なことが多くても、もうその時点では信じ込んでしまって、と言う感じだと思います。人は見た目で判断してはいけないと言う、昔から言われている格言のような事実を大切にしていきたいと、これも私は勝手に思っています。そして最後はこれぐらいにして、教育コラムとして書きましたので、家族で少し意見交換されると良いのかな～と思います。

では、『世の中本当は逆のことが多い』を終わりにしたいと思います。これって、私の勝手な感想でしたかね～！？

ソニー生命保険(株) 大分支社
〒 870-0029 大分市高砂町 2-50
オアシスひろば 21 9 階
TEL 097-532-9200
ライフプランナー 山田新悟